

佐用町昆虫館 生き物様々

八田 康弘¹⁾

佐用町昆虫館スタート時には全く関わることなく、たまたま内藤理事長にお目にかかった時に昆虫館の存在を知り、途中より活動に参加しました。

あれはちょうど2010年8月1日竹田先生が1日館長をされた時、たまたま、どなたもサブ館長に入られる方がおられず、恐る恐る手をあげたことが、そもそもの始まりでした。当時は館長ということから務まるのかと大層に考えていましたが、昆虫の知識が多少不安でもなんとかやれることがやっているうちにわかった次第です。

私自身は大学で応用昆虫に関わったとは言え、卒業後は生物全般の知識が必要な道に進んだことで、植物、動物あらゆる分野に関わり、どの分野も中途半端に興味を持ってきた関係でよく言われる蝶屋、トンボ屋、カミキリ屋と言われるような虫に関しての専門分野もなくきたのが現状でした。

昆虫をやられている方は採集や標本づくにも長けておられますが、わたしはもっぱら生態をカメラに収めることが主で、分類に関しては、全くの素人でした。またある時期は日本野鳥の会に入って、鳥の写真に凝っていた時期もありました。

皆さんの専門的な知識で勉強させてもらうつもりで関わり始めたというのが正直なところでした。思惑通り、皆さんのおかげでこれまでたくさんのことが学びました。

もう一つ、活動をしていてよかったことは、たくさんの生き生きした子供たちに出会えたことです。今までは、教育という仕事の関係で、多くの青少年と接してきました。たまに虫や生き物に興味を持った青少年には出会いましたが、最近は本当に希少な出会いで絶滅危惧状態でした。昆虫館で生き生きした子供たちに出会うことで自分自身の子供時代の感覚が目覚め、楽しい時間を過ごせたことが良かったです。以上が佐用町昆虫館に関わったことの経緯ですが、ここからいよいよこの文章を書こうと思った本題に入ります。

昆虫館という名前から虫の達人には邪道とお叱りを受けそうですが、ここには虫以外にたくさんの生き物と出会える環境があります。長い間、ここのお世話をされていた内海先生の自然に対する姿勢からか昆虫館にはたくさんの地元の野草が持ち込まれています。残念ながら、かなりの野草が絶えつつありますが、早春のセツブンソウから始まり、地味な野草の花に出会うことも私にとっての楽しみです。なかなか虫が寄り付く植物と共存するのは難しい面もありますが、少しでも維持できればと少数意見かもしれませんが気配りをしていきたいと思っています。

昆虫館前には雑草のように広がった準絶滅危惧種のキクガラクサ(図1)の白い花が咲いています。湿度が



図1 キクガラクサ (2015年5月31日)



図2 アカショウビン (2013年6月8日)

¹⁾ Yasuhiro HATTA 宝塚大学看護学部特任講師



図3 オオルリ (2015年5月17日)

高い場所がらか多種のコケやシダを眺めることができるのも佐用町昆虫館周辺の利点だと思われます。

また昆虫館の歌に出てくるアカショウビン (図2) を始め何種類かの鳥たちの鳴き声や姿に出会えるのも、このあたりならではの事です。毎年春の繁殖期には付近の田畑でキジのつがいが見られ、昆虫館周辺では、オオルリ (図3)、サンコウチョウ、アカショウビンの鳴き声が聞こえます。特にアカショウビンについては、なかなか声はすれども姿が見えずで、確認することができませんでした。とうとう2013年6月8日14時にまさに昆虫館の裏手の川筋の枝に燃えるような赤い姿を見ることができました。今年大学生となったルリ坊こと大江君と共に見たのが昨日のように思い出されます。コンパクトデジタルカメラしか持っていなかったので、証拠写真レベルではありますが貴重な写真が撮れました。

昆虫館でありながら、虫以外の話題が続きますが、もう一つこの昆虫館周辺で見られる生き物として両生類のことを書いておきます。裏の川筋にいるカジカガエル



図4 モリアオガエル (2015年5月17日)

のオスの鳴き声とともに昆虫館の周辺で大きなメスも観察することができます。決まった時期に裏山から毎年やってくるモリアオガエル (図4) の多さや、所構わず生みおとされる卵塊の多さにも驚かされます。もう少し場所を考えて産卵してはと言いたくなるほどです。またここではシュレーゲルアオガエルとモリアオガエルが同時に鳴いているのでその違いを体感することができます。曇った日の朝早めに昆虫館に着くと一匹のモリアオガエルのメスにしがみついた複数のオスに出会えることもあります。メスを獲得する自然の厳しさをひしひしと感ずることができる瞬間です。このように昆虫以外の様々な生き物にも出会える昆虫館で昆虫たちも様々な生き物と共に暮らしていることを感じてもらえたらと思います。

自然に恵まれた地域密着型の体験施設として、これからもたくさんの子供たちに利用してもらって、この佐用町昆虫館で、あのレイチェルカーソン (沈黙の春の著者) が伝えたかった、たくさんの自然のセンスオブワンダーに出会ってもらえたらと思っています。